

玉山地域 鳥獣被害対策担当
地域おこし協力隊 阿形 正

「害獣から『農のめぐみ』を守るプロジェクト」

令和5年度の主な活動

- 地域における季節ごとの獣痕跡、行動調査
- トレイルカメラを用いた野生動物の生態調査
- 農作物の被害調査
- 猟銃、罠を用いた有害鳥獣の捕獲駆除
- 地域、状況に応じた効率的な捕獲法の考察とその実証実験
- 効率的で有効な誘引餌の検証
- 大型かこい罠を用いた大型獣の多頭捕獲への試み
- 安全な捕獲、放獣作業を行うための保定具の製作およびその改良
- 地域住民に向けた鳥獣被害対策の啓蒙活動

はじめに

- 私が玉山地域の鳥獣被害対策員として、着任してからほぼ毎日日課として行ってきたことがいくつかあります。一つは、当日の朝の天候と気温の記録。二つ目は、決めた地区の動物の痕跡調査と観察。三つ目が、トレイルカメラを利用した動物の行動の観察と映像の記録。そしてもう一つ、仕掛けた罠の見回りです。単調な作業ですが、毎日のことになるとそれなりに時間もかかり、根気の必要な仕事でもあります。しかし、そのかいあってか、近頃では地域は限定的ですが、動物たちが現れるタイミングが、なんとなくわかるようになってきたように思えます。行っていること自体は代り映えしていないのですが、内容は確実に進歩してきていると自分なりに実感しています。地味なことをひとつひとつ積み重ねていくことの大切さを、この歳になって再認識させられている次第です。

被害の状況(イノシシ)

- これまで生息数が少なく、限定的であったイノシシによる被害も昨年あたりから目に見えて増加してきている。このまま何も対策を講じなければ、近い将来手に負えなくなってしまうのでは？と、危惧してしまう。



対策として

- 一昨年ほど前から大型のかこい罠を運用して、イノシシの多頭捕獲を試みている。イノシシは嗅覚が優れているうえ、鼻の位置が低く地面の匂いを嗅ぐのに適しているため、シカの捕獲に用いられるくくり罠と呼ばれるワイヤー式の足取り式の罠は見破られやすく捕獲が困難であるため、このような誘引餌を使用した大型の檻のような罠で多頭捕獲することが効率的と考え使用させてもらっている。昨年秋に、五頭のイノシシを檻内に誘引することが出来たが、タヌキによりセンサーの配線が断線させられていたため捕獲にはいたらなかった。その他イノシシ用に、大型獣用の箱罠の運用も行っている。
- (写真左からかこい罠、箱罠、くくり罠)



誘引餌の検証

- 令和5年度も多くの餌を使った検証を行った。鳥獣被害の現場で多く使用され定番とされている誘引餌は米糠、玄米、ヘイキューブ(家畜用の牧草をキューブ状に固めたもの)といったものだが、今年度はそれらに加え、魚釣り用のマッシュポテト、サナギ粉、家畜用の配合飼料(数種)・乾燥トウモロコシ、オカラ、各種果物、イモ類、葉物野菜、根野菜等々 色々と試した。その時の状況により一概には言えないと思うが、イノシシについてはマッシュポテトに対しての嗜好性が高いように感じられた。ただコストパフォーマンスが悪いため、日常的に使用することは非現実的。
- 使用した誘引餌一部



捕獲成果

- シカについては、くくり罠を使用した捕獲が最も多く、効率的な捕獲方法なのだと思います。イノシシは、先程述べたとおりくくり罠での捕獲は難しいと考えていますが、現状では、かこい罠・箱罠の数が少なく、餌を使った誘引など手間やコストが掛かってしまうため捕獲数はくくり罠での捕獲が多くなっています(設置している数が圧倒的に多いため) ツキノワグマに関しては、ほぼドラム缶を利用した箱罠での捕獲になっています。
- イノシシ用に設置してあるかこい罠に、どういうわけか大きな牡シカが入っていました。大型の獣が三頭入らないと扉が閉まらないようセンサーの設定をしていたのですが、未だ謎の出来事でした。
- 左からかこい罠牡シカ・箱罠イノシシ



ツキノワグマ対策

- 令和五年は、各地でクマ騒動が巻き起こっていました。盛岡市も例外にもれず連日ニュースで報道されていましたね。岩手大学クマ研の山内准教授とお話しをしたさいに、「今年は山の堅果類が少ないうえに、去年は逆に豊作で暖冬だった影響で無事に冬越し出来た若いクマ達が、餌を求めてこぞって里までおりてきている」と述べられていました。少し生息数が増え過ぎてしまっているように私も感じます。クマも悪戯せずにおとなしく山にいてくれたら良いのですが、実際問題被害がでてしまうと捕獲しなければならなくなってしまうのです。最初は、被害地での追い払い作業で、強力な花火を鳴らして脅かせて警戒心を抱かせ近づかないようにします。それでも懲りずに現れるようなら捕獲の運びになります。
- 左から追い払い、クマによるデントコーン食害、クマ用罠



中型動物の対応

- 動物の農作物被害というとシカ、イノシシ、クマが頭に浮かびがちですが、鳥獣被害と呼ばれるようにカラスやムクドリ、スズメ等の鳥類の被害も非常に多くあり、それに加えてタヌキやハクビシンといった中型動物の被害もあります。そういった鳥獣の被害対策にも対応してきました。
- 左からカラス捕獲用檻罠、箱罠捕獲のタヌキ、箱罠捕獲のハクビシン



啓蒙活動

- 新人ハンターのために毎年行われている懇親会や、地域の勉強会に補助としてですが参加させていただきました。新人ハンターの方々には、現役ハンターの方々への橋渡しと狩猟参加へのきっかけづくりを。勉強会では、鳥獣被害対策への関心を持ってもらえるよう、自分の経験を通したお話をさせていただきました。
- 毎年、決まった時期になると小型動物用の罠が足りなくなってしまう、対応に遅れが生じて被害が大きくなってしまっている現状を伝えたところ、地域で捕獲罠の購入を検討してもらえることになりました。



今後の目標

- 早いもので、盛岡市地域おこし協力隊として着任してから三年目を迎えることになりました。残りの任期で何が出来るであろうと考えたとき、やはり今後必ず必要になってくると思われる、捕獲動物の解体処分場であろう。出来れば任期中に完成となってくれればと願っていましたが・・・。猟友会の方々の負担軽減になれるよう尽力していきたい。



捕獲動物の埋設作業を行う猟友会員

ご清聴ありがとうございました

